

第22号

関宿城
博物館

友の会

会報誌

千葉県立関宿城博物館友の会

〒270-0201 野田市関宿三軒家143-4

TEL.04-7196-1400 FAX.04-7196-3737

[平成27年10月31日] 刊行



関東地域のやきものの数々
(関宿城博物館HPより)

開館20周年記念 企画展

開催中

海路から広がったやきもの

—近世以降の関東—

平成27年10/6(火)～11/29(日) 期間中無休

江戸時代に西方から海を渡って関東に入ってきた焼き物が、どのような航路を辿ってきたかを探るとともに、関東への広がりについて紹介されています。また、その後関東で誕生した笠間焼や益子焼などの焼き物と、その流通について触れることができます。

盛り沢山な関連イベント等の紹介

今回の企画展には以下に示す関連イベントが計画されています。皆様のご来館をお待ちしています。

【内覧会】 10月5日(月)

対象者：報道および博物館関連機関、企画展協力者、友の会会員特別招待

内容：企画展会場の公開および学芸員による展示品等の説明



【歴史講座】 10月18日(日) 13:30～

演題：「海路から広がったやきもの 北関東の陶磁のあゆみ～成立と展開～」

講師：岩下祥子(さちこ)氏 (国士館大学講師)

江戸時代中期以降、関東では笠間焼や益子焼などの産地がつくられました。

これらの産地で生産された陶磁器の歴史についてのお話です。

【野外講座】 10月25日(日)

「野外散歩—関東のやきものの里を訪ねて—」(友の会主催)

訪問・見学先：益子陶芸美術館、益子焼窯元共販センター、成井(なるい)窯作業場

【解説会】 11月3日(日・祝)・23日(月・祝) 11:00～12:00、13:30～14:30

博物館学芸員による詳細な企画展のお話やガイドがあります。

【企画展図録】 開館20周年記念 平成27年度企画「海路から広がったやきもの—近世以降の関東—」

(A4サイズ・カラー・18ページ) 販売価格 一部 500円

編集 千葉県立関宿城博物館 発行 千葉県立関宿城博物館 友の会

次号(第23号・12月31日刊行予定)には、10月25日(日)に開催いたしました平成27年度・野外講座「歴史散歩—関東のやきものの里を訪ねて—」(友の会主催)へご参加の会員による投稿コラムを掲載いたします。お楽しみに！

博物館セミナーに参加しましょう！

関宿城博物館では毎年思考を巡らせた「博物館セミナー」が開催されています。本年度の「博物館セミナー」は全7回(①8月30日(日)、②9月26日(土)、③11月22日(日)、④12月20日(日)、⑤1月17日(日)、⑥2月21日(日)、⑦3月13日(日))が計画されています。なお、各回共通で講演時間:13:30~15:30、定員:30名、対象者:一般、受講料:200円となっています。申込方法を含むセミナーの詳細な案内は博物館公式ホームページや同館刊行の「せきはくマガジン」等に掲載されますので、興味あるテーマにお気づきの節は是非ともお申込み、ご参加ください。

平成27年度「博物館セミナー」

第1回 : 平成27年8月30日(日)

講師 : 岩槻秀明氏

タイトル : **河川敷にススキは生えているか
— 秋の河川敷に見られる植物 —**

内容 : 秋になると関宿城博物館周辺の河川敷にも、ススキによく似た植物の穂がたくさん出てきます。でも果たしてそれは本当にススキなのでしょうか? 関宿城周辺を中心に、秋の河川敷で観察できる植物を紹介しながら、「河川敷の植生」について考えていきたいと思います。

第2回 : 平成27年9月26日(土)

講師 : 中村正己氏

タイトル : **戦後70年 鈴木貫太郎終戦内閣について**

内容 : 戦後70年、終戦時内閣総理大臣をつとめ、太平洋戦争を終戦に導いた鈴木貫太郎翁についてお話しします。侍従長時代の二・二六事件をはじめとし、終戦内閣の発足に至るまでの状況を、「鈴木貫太郎傳」(編集兼発行 鈴木貫太郎伝記編集委員会)に触れられない部分を加えて紹介します。

第3回 : 平成27年11月22日(日)

講師 : 市川幸男氏

タイトル : **天明三年の浅間山噴火と利根川の洪水と
治水について**

内容 : 今年になって、日本各地で火山の噴火が相次ぎ、浅間山も6月に小規模噴火が始まっています。今回は火山列島の中央部にある利根川の洪水と、治水事業に対して、浅間山の噴火の影響の大きさについて紹介します。

第4回 : 平成27年12月20日(日)

講師 : 石田年子氏

タイトル : **野田市の回国塔と嶋村庄造の納経帳**

内容 : 日本六十六ヶ国の主要社寺に法華経を奉納して回る巡礼のことを回国といいますが、この達成には、信仰心はもとより体力・費用・長い歳月など難関が多く、回国を成就した行者は崇敬の的となりました。野田市には、享保期に回国を果たした回国塔と納経帳を残している嶋村庄造を始めとする百基余の回国塔が残されており、塔に刻まれた銘文から見えてくる漂泊する行者達について語ります。

第5回 : 平成28年1月17日(日)

講師 : 松丸明弘氏

タイトル : **利根川・江戸川舟運—川船、河岸、河岸問屋—**

内容 : 江戸時代、運送の主役は船であり、江戸川・利根川を様々な種類の荷を積んだ川船が活躍しました。近世に入っの河川流路の変更の様子、江戸川・利根川の舟運の様子、鯉魚街道などと呼ばれた河岸と河岸をつなぐ道の様子、河川交通に使用された川船などについて話をします。

第6回 : 平成28年2月21日(日)

講師 : 新井浩文氏

タイトル : **築田家文書の世界Ⅲ—書状—**

内容 : 戦国時代に関宿城主であった築田氏は、古河公方足利氏の重臣でした。北関東への進出を狙う後北条氏とたびたび合戦に及びました。今回は、この築田家文書の中から書状を中心に取り上げ、築田氏の花押や文書の特徴についてお話しします。

第7回 : 平成28年3月13日(日)

講師 : 松井哲洋氏

タイトル : **古代の船の姿を推測する**

内容 : 近年、弥生から古墳時代にかけての特徴のある船・準構造船の断片の出土事例が相次ぎ、埴輪などでしか知り得なかった当時の船の姿をより具体的に推測することが可能になりつつあります。いくつかの出土事例について皆さんと一緒に検討してみます。

友の会主催イベントの紹介 <平成27年12月>

○ 12/6(日) ミニ門松づくり (9:30~12:00) 参加費(材料費): ¥500/組

8組の参加者を募集予定

<開催日が変更されました>

【編集後記】 先の鬼怒川堤防決壊や風水害の被害にお会いになった皆様の一日も早い復旧・復興を祈念いたしています。このところの天候異変続きで、野菜や海産物の収穫が激減。高騰が気になりますが意外にも柿をはじめみかん等の果実の方は豊作とか……。冬將軍はすぐそこに来ています、お互いに体調維持には留意したいものです。
(広報・長岡)